



地域を支える移動販売
松下 洋平さん(四万十町久保川)

この先、移動販売が必要になる

松下さんが移動販売を始めたのは今から約3年前。久保川に住み始めたときには移動販売をやるうとは思っていなかったのですが、地元の方から、「この先、移動販売が必要になるからやってみませんか?」と声をかけられたのがきっかけだったそうです。その後も熱心に声をかけてもらい、商工会の補助金も活用しながら、移動販売を始めたとのこと。今では週に約3日、十和地域を中心に、山奥の集落まで隔々回っており、テレビを見て松下さんを知った方からは、「こっちにも来てほしい。」と連絡が来るなど、今では地域に欠かせない存在となっています。

コミュニケーションも大事

また、買い物だけでなく、地元の方とのコミュニケーションも大事だと、移動販売を勧めてくれた方が教えてくれたそうです。高齢で独居の方も少なくない地域を回る松下さん。移動販売をする中で、自宅で体調が悪くなっている方がいた際には、民生委員へすぐに連絡をとるなど、地域の見守り役も担っています。時には、販売先のご自宅で電球をとり変えられずに困っていたところを手伝ったこともあったそうです。取材させていただいたときにも、「今日も暑いねえ、大丈夫かね?」と販売先の地域の方を優しく気遣う姿が印象的でした。



朝 7時には準備開始。食料品や生活用品、衣料品などを移動販売車へ載せていきます。暑い日にはスポーツドリンクや経口補水液、アイスクリームも載せて回るそうです。



最 初の販売先へ到着。「待ちよった、待ちよった!」と、住民の方が笑顔で出てこられました。「今日は何がある?」と商品を選びながら、最近あった出来事などを楽しそうに話されていました。



こ の日は朝から気温が高く、蒸し暑かったためか、アイスクリームやビールがよく売れていました。1人で買い物に行けない方や、スーパーやコンビニが近くにない地域にとっては、自宅前で冷たい物が買えるというのはとても便利です。



お 年寄りの方が多く、買った商品を一人では持てない方がいるときには、買い物かごに入れた商品を玄関まで持っていくなど、常に地域の方を思いやっている松下さん。地域の皆さんも、松下さんが移動販売にくることを楽しみにされている様子でした。

安心して暮らせる環境を守っていくために



6月号の特集から3回にわたって、公共交通機関の現状や課題、地域の足を守る取り組みを紹介してきました。日本が人口減少社会に入り、急激に進む人口減少や少子高齢化によって、働く人材や後継者不足、商店街の衰退、公共交通機関の経営悪化による鉄道の廃線や路線バスの減少など、さまざまな問題が全国各地で起こっています。住み慣れた地域で安心して暮らせる環境を守っていくためには、「地域の足を守る」ということが、本町のみならず地方では特に大切なことではないでしょうか。行政や公共交通機関の取り組みはもちろん、地域の足を地域で支え合う取り組みが、安心して暮らせるまちづくりに繋がっています。